

## 0 理念

### 進捗状況報告

上記目標群（1）の5で掲げた「日本におけるキリスト教平和学の情報発信センターの構築」のために、グローバルな視点で「平和」を考えることが出来るようテーマを設定し、2006年度だけでも4回のRCCフォーラムを開催した。また、「聖典と今日の課題」・「聖餐の理論と実践」の2つのプロジェクト活動による研究会6回とミニフォーラムを5回開催した。

次に、自己点検・評価で記した「改善の具体的方策」では、項目に設定した理念目的に沿った具体的な目標について様々な取り組みをおこなった。2006年度は、1. 総合コースで現在提供している講座「暴力とキリスト教」は2007年度春学期で終え、秋学期から共同研究を立ち上げ、「愛を考える」（仮題）を、そして2008年度秋学期からは、「聖典と現代の諸問題」（仮題）を提供する準備をする。

「改善の具体的方策」の中で、2. の参加者の拡充を図るために、リーフレットの作成・配布の他に、今年度はRCCのホームページを充実し、ホームページ上にフォーラム、ミニフォーラム、研究会の開催予告をおこなった。

3. の海外の研究者の招聘、交流を積極的に図ることについて、今年度、韓国から呉 在植氏を招きRCCフォーラムの講師を務めていただいた。

4. の地域社会への情報発信、ニュースの提供として、2006年度は『RCCニューズレター』9号、10号、11号を発行したり、図書として『聖書の解釈と正典一開かれた「読み」を目指して』（キリスト新聞社）を刊行した。

次に、これらフォーラムやミニフォーラム、研究会の成果を基に、平和学構築の研究に関し『キリスト教平和学事典』の編集をスタートすることが出来た。「改善の具体的方策」目標群（2）の5にある財政的基盤の確立についても、大学の良き理解のもと、出版に関する財政的支援を得る見通しができたため、この事業を進めることができることとなった。この出版事業は、本研究センターの一つの目標であるキリスト教と文化一般の総合分析と研究の成果として、また現代社会が直面するグローバル世界の諸問題の探求としての成果を期待したものである。

### 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

今年度スタートした「キリスト教平和学事典」編纂のプロジェクトをベースに宗教分野ばかりでなく、広く他領域専攻の執筆者の参加を得、改善が進んでいる。

### 学内第三者評価

理念・目的に添って、さまざまなプロジェクトが計画・実行されていることが評価できる。また、自己点検・評価に基づいて適切にPlan-Do-Check-Actionのサイクルを回し、誠実に改善を進めている。

2005年度の「改善の具体的方策」に記されているプロジェクトへの参加者の少なさについては、その後どのように改善が進んでいるかについて記述が求められる。